



△清勇は赤渕川と沼川の合流点付近の地域

清勇は、うつそうとしていたけど、川沿いの土手が小高くなっているから、周りがよく見渡せるんだよ。毘沙門さんの祭りのときなんかは、だるまを買って歩いている人の姿を見ることができたんだ。

昔、このあたりは水がきれいで、ふんどし一丁でよく水遊びしたものだよ。魚もたくさんとれたり、投網している人もいたつけ。でも、今では、当時の面影はすっかりなくなってしまったなあ。

佐藤錦之助さん（中央町）



# 川天狗 清勇の

## 富士の民話 あれこれ

赤渕川と沼川の合流点付近を“清勇”と言います。

昔、このあたりは、うつそうとしたところだったので、きつねやかつぱ、天狗などに化かされたという話が、たくさん残っています。

今回は、清勇にあらわれた川天狗のお話を紹介します。

ある夏の、今にも雨が落ちきそうな暗い晩のことです。虎さんは、清勇まで夜釣りにやつて来ました。

「きょうは、よく釣れたな」といっぱいになつたびくを下げて、虎さんが帰り支度をしていると、後ろから「おい、魚をくれ」という声がしました。振り返つてみると、すぐ後ろに恐ろしい顔の川天狗が立っていたのです。

「うわあ」びっくりした虎さんは、声にならない叫び声を上げ、びくを抱えて一目散に逃げ出しました。

すると、向こうから、ほおかぶりをした隣の金さんが歩いてくるではありませんか。「どうした虎さん、そんなに息を切らして」「で、出たんだよ、川天狗が。それがな、物すごいんだ」「ほう、そいつはこんな顔だつたかい」と言いながら、金さんはほおかりを取りました。何と、その顔は、あの恐ろしい川天狗の顔だつたのです。虎さんは「ううーん」と気を失つてその場へ倒れてしまいました。

虎さんの帰りが遅いので近所の人たちが捜しにやってくると、土手の上で気を失つている虎さんを見つけました。虎さんは、大事そうにびくを抱えていましたが、その中は空っぽだったということです。

人口	233,841人
男	116,539人
女	117,302人
世帯	74,520世帯（5月1日現在）
発行・編集	富士市総務部広報広聴課
静岡県富士市永田町1-100	☎51-0123

